



前進

第13号

1月19日発行

文責：濱田

育てたい力：共感力・探究力・協働力

◎実り多い一年になりますように

令和4年がスタートしました。元旦は快晴の日和で清々しい一日でした。佐敷小では年の暮れに玄関に生花としめ縄を飾り、新年を迎えたところです。特に生花は、本校のお二人の先生に丹精込めて生けていただきました。

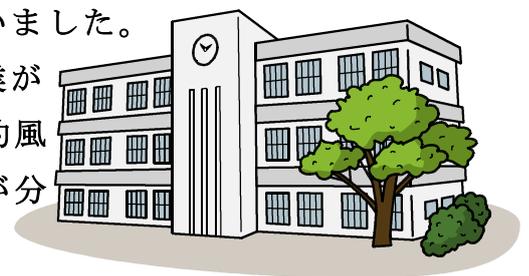
令和3年の佐敷小はプレハブ校舎での学校生活からスタートしましたが、教育委員会のご尽力で改修工事もスムーズに進み、プール・本校舎も予定通りに改修が終了しました。2年ぶりに本校プールで水泳が実施できたり、9月から本校舎で全校一緒に学校生活を送れるようになったり、2学期の主な行事も実施できたりと、徐々にではありますが復興が進んでいることを実感した1年でもありました。

1年という期間は、大人の感覚では過ぎるのが大変早いと感じるものですが、子供の成長にとっては大変貴重で有意義な時間となります。令和4年が佐敷小の子供たちにとって実り多い一年になるよう、職員一同精一杯教育活動にあたっていきたいと思います。

◎さしきっ子育成協議会を開催しました

1月13日(木)に、第1回さしきっ子育成協議会を開催しました。本来であれば1学期に開催すべき会だったのですが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために3学期に実施することになりました。当日は7人の委員に来校いただき、授業参観で子供たちの様子をご覧いただき、その後協議を行いました。

委員からは「どの学級も子供たちが落ち着いて授業が行われていた。」「手を挙げる子供たちが多く、支持的風土ができていた。」「ICTの活用が進んでいることが分かった。」といったご意見をいただきました。



一方、子供たちを地域で見守るという視点から、「地域の行事等への子供の参加に協力いただきたい。」「町内のIT企業等を学校で活用されたらどうか。」「リモート授業に向け、公民館をWI-FIスポットとして活用することを視野に入れたらどうか。」など、大変建設的なご意見をいただきました。

ご意見の端々に、佐敷小の子供たちを校区全体で育てたいという思いを感じ取らせていただきました。芦北町では、令和4年度からすべての小中学校でコミュニティ・スクールをスタートさせます。学校と保護者や地域の皆さんがともにアイデアを出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支えることを目指すものです。さしきつ子育成協議会の会のあり方はこれから検討をしていきたいと思いますが、保護者・地域の意見を学校運営に生かす方針は、しっかり継続していきたいと考えています。

◎佐敷中学生と一緒にあいさつ運動

佐敷橋で本校の子供たちをはじめ、佐敷中学校、芦北高校、芦北支援学校佐敷分教室の生徒たちとあいさつを交わし、1日をスタートさせています。多くの児童生徒が気持ちの良いあいさつでさわやかな気持ちにしてくれます。



12月20日(月)に佐敷中学生会の皆さんと先生方が来校され、佐敷橋で一緒にあいさつ運動を行いました。

この日、先輩である中学生のお兄さん・お姉さんとのあいさつに最初はびっくりした表情も見られましたが、すぐに慣れてともに元気よく「おはようございます」のあいさつを行っていました。

中学生の姿を間近に見て「自分たちもあんな中学生になりたい」と憧れを抱き、安心感をもってスムーズに中学校へ進学できるように、今後も小中連携の取組を意図的に行っていきたいと思います。

【校長室から】始業式には「3学期はまとめの学期であるとともに、次年度の0学期。目標をもってコツコツと取り組み、成長を確認しよう。」と話しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をうけ、教育活動も大きな制限を強いられる可能性も高まってきました。感染拡大防止に向け、ご家庭の協力は欠かせません。様々なお願いをしたり予定していたことを変更したりすることもあるかもしれませんが、ご協力をよろしくお願い致します。